

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年9月18日

新型コロナワクチン接種により新型コロナ感染後の心血管疾患 死亡リスクも全死亡リスクも大幅に低下した

【松崎雑感】

香港の100万人近くの電子的医療データを解析して、新型コロナワクチンの効果を検証した論文です。新型コロナ感染は、血栓症リスクを高めるため、心筋梗塞や脳梗塞リスクが高くなります。新型コロナワクチンを打つと、新型コロナに感染しても、心血管死亡リスクが大きく減ることが示されました。

もうひとつ、mRNAワクチンを打つとかわって死亡率が増えるという主張が本当かどうかですが、ワクチン接種が全死亡率をしっかりと下げることが示されました。ワクチンを一回も打たない群と比べて、3回接種で全死亡率が5分の1から10分の1に減ります。

新型コロナワクチン※接種により新型コロナ感染後の心血管疾患死亡リスクも全死亡リスクも大幅に低下した

Wan EYF, Mok AHY, Yan VKC, et al. Association between BNT162b2 and CoronaVac vaccination and risk of CVD and mortality after COVID-19 infection: A population-based cohort study [published online ahead of print, 2023 Sep 13]. *Cell Rep Med.* 2023;101195. doi:10.1016/j.xcrm.2023.101195

(※ビオンテックワクチン:mRNAワクチン、コロナバクワクチン:不活化ワクチン)

新型コロナワクチン接種が新型コロナ感染後の心血管疾患死亡リスクを減らすかどうか明らかになっていない。

香港の電子的医療データ（およそ100万人）を解析して、ワクチン種類および接種の有無が新型コロナ感染後の心血管疾患（虚血性心疾患、脳卒中、心不全）死亡リスクと全死亡リスクを減らすかどうかを調査した。

ワクチン未接種群と比較して、ワクチン接種群は接種回数が増えるほど、新型コロナ感染後の心血管疾患死亡リスクおよび全死亡リスクが有意に低下していた。

ワクチン種類（mRNAあるいは不活化ワクチン）、性別、年齢、チャールソン基礎疾患指数、新型コロナ重症度別の解析でも、同様の関連が示された。

新型コロナワクチン接種回数が増えるほど、新型コロナ感染後の心血管疾患死亡リスクが低下することが確認された。

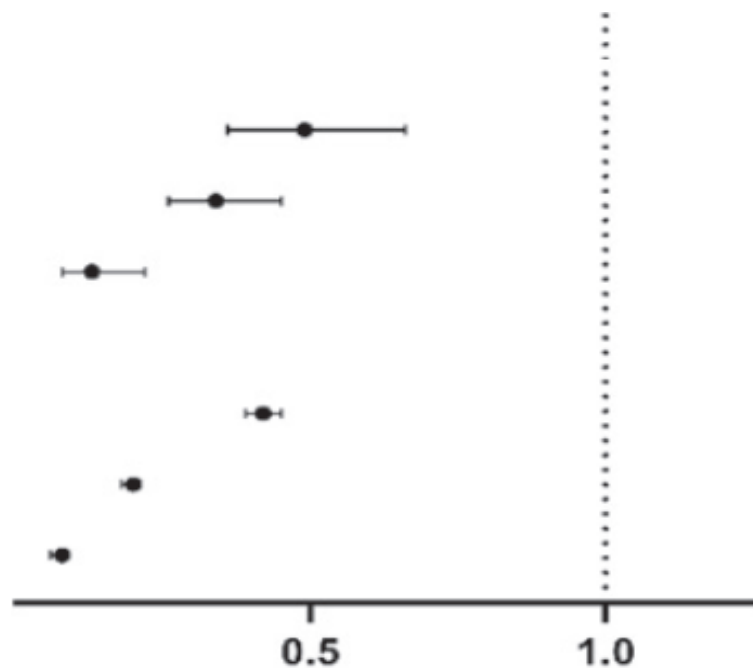
新型コロナウイルス感染から28日以内の死亡リスク

心臓血管疾患死亡リスク

ワクチン接種	なし	REF
	1回	0.49 (0.36 - 0.66)
	2回	0.34 (0.26 - 0.45)
	3回	0.13 (0.08 - 0.22)

全死亡リスク

ワクチン接種	なし	REF
	1回	0.42 (0.39 - 0.45)
	2回	0.20 (0.18 - 0.21)
	3回	0.08 (0.06 - 0.09)



ワクチン未接種と比較して、ワクチン1回接種で心血管疾患及び全死亡リスク半減、3回接種で10分の1前後に低下

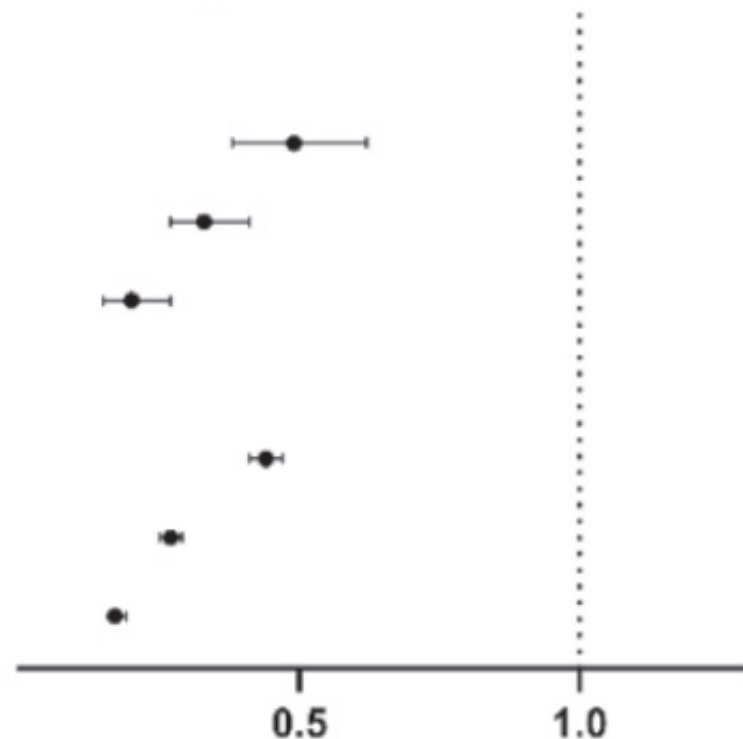
新型コロナウイルス感染から28日以降の死亡リスク

心臓血管疾患死亡リスク

ワクチン接種	なし	REF
	1回	0.49 (0.38 - 0.62)
	2回	0.33 (0.27 - 0.41)
	3回	0.20 (0.15 - 0.27)

全死亡リスク

ワクチン接種	なし	REF
	1回	0.44 (0.41 - 0.47)
	2回	0.27 (0.25 - 0.29)
	3回	0.17 (0.16 - 0.19)



ワクチン未接種と比較して、ワクチン1回接種で心血管疾患及び全死亡リスク半減、3回接種で5分の1に低下